

平成 25 年度 第 1 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

初田 賢司 藤原 良一

Activity Report of SPM Research Committee

Kenji Hatsuda Ryoichi Fujihara

研究委員会では現在 10 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 25 年 2 月 1 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

1. 研究会活動

(1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

プロジェクト計画立案のための要求整理方法を、QFD の考え方を応用して検討しています。今年度は QFD の考え方やソフトウェア設計のための技法の考え方をを用いて見積もり精度向上のための方法を検討しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・2012 年 12 月 17 日(月) 研究会開催

11 月に検討した今後の方向性に対して、春季大会への発表に向けて文献調査、および検討経過を確認し、内容を議論した。

・2013 年 1 月 31 日(木) 研究会開催

前回議論からの研究成果をまとめた発表予稿を確認し、内容を議論した。

<今後の予定>

・3 月 6 日(水) 研究会開催予定

春季大会での発表をリハーサルし、発表内容の精査と今後の展望を議論する。

(2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所, 大阪大学)

原則 2 か月に 1 回のペースで研究会を開催しています。プロジェクトに関わるリスクを中心に各会員が発表しています。現在、新規会員を募集中です。分野を問わずリスクやリスク・マネジメントに関心・興味のある方大歓迎です。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

12 月 15 日に開催しました。武井主査から「戦略的リスク・マネジメントの実践」に関する研究報告が発表されました。

<今後の予定>

次回例会は 2013 年 4 月に開催予定です。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】spm-risk@yahoo.co.jp

(3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクトに焦点を当てて研究会を行っています。

2009 年春季大会にて発表した「電子政府調達計画にみる社会基盤情報システムプロジェクト成功への提言」を基にソーシャル PM の体系化、モデル化を行う等検討を深めてきました。また、研究会の活動概要を 2011 年の秋季大会で報告しました。

<活動実績と今後の予定>

2010 年より政府最適化プロジェクトの PM の方々の協力を得て、ソーシャル PM の視点で経験や教訓の整理を行い、研究会の成果としてとりまとめる予定です。

今後、社会インフラプロジェクトの事例研究として、東日本大震災の復旧復興プロジェクト等を新たな企画テーマとして研究を行うこと等、新年より立ち上げるべく研究会の体制を検討中です。

(4) PM 人材育成研究会

(主査: 西沢 和民 スピカ・ソリューションズ)

当研究会のメンバーが、PM の育成やプロジェクトマネジメントに関する様々なテーマについて、2010 年から学会誌に連載してきました。研究会の成果を発表する場としてより一層活用するために、全体のフレームワークを決め、来期(2013 年 4 月)から PM 人材育成研究会連載「第 2 部」として掲載することを目指しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

連載「第 2 部」の基本テーマを「企業のプロジェクトマネジメント力向上-中堅リーダーや経営層の PM 育成」とすることになりました。12 月度例会では、連載記事全体の流れについて討議しました。2013 年 1 月度例会では、基本テーマを踏まえ連載記事の構成と記述方法について検討しました。

<今後の予定>

2 月度例会では各メンバーが担当する記事の構成案を討議し、3 月例会で連載記事の掲載順序を決定します。学会誌の 4 月号に連載「第 2 部」のプロローグ編を掲載することを目指しています。

【問い合わせ先】 pm-com@yahooogroups.jp

(5) パーソナル PM 研究会

(主査：富永 章 PM ラボラトリー)

個人のゴールや目標の設定・達成にモダン PM 等を活用し、この領域を体系化する試みをしています。個人プロジェクトで結果を確実に出し、本人の達成感・幸福感だけでなく、周囲、ステークホルダー、社会にも良い影響を与える、そういう個人 PM を目指しています。個人向け手法の点検、報告作成、啓発、こどもびいえむ、リーダー育成に展開等、メンバーの取組みは多様で広範囲です。一昨年出版した書籍「パーソナルプロジェクトマネジメント」は引き続き好評です。昨年からは研究ロードマップを更新しつつ楽しく活動しています。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

12 月 18 日第 48 回会合（於 筑波大学東京）報告と自由発表 4 件、情報交換

1 月 21 日第 49 回会合（於 筑波大学東京）報告と発表 6 件、50 回記念会合検討。HP 作成案検討

<今後の予定>

2 月 10 日-11 日第 50 回会合（於 熱海）会合 50 回を記念し合宿検討会。春季大会発表の準備

【問い合わせ先】 spm.ppmken@gmail.com

(6) 歴史に学ぶ PM 研究会

(主査：桑原 秀仁 トヨタファイナンス)

歴史上の出来事や人物についてプロジェクトマネジメントの視点から焦点を当てることで見えてくるものがある、ということで当研究会に集っています。歴史に学ぶプロジェクトマネジメント研究会では、メールを活用したコミュニケーションを図っています。各メンバーが自分の取組みテーマをマイペースで調査/研究しています。

<メンバーからの近況報告>

ドラマ「八重の桜」で会津が脚光を浴びている。古くは保科正之の家訓、藩校日新館での教え、什（じゅう）の掟、今では会津っ子宣言とその精神は形を変えながら脈々と受け継がれているように見える。プロジェクトにおいてはプロジェクト憲章を宣言したり各種の「べからず集」などを作成したりもするがその場限りや俄仕立てだとちょっとキツイ。プロジェクトは常に新しく同時に常に繰り返すものである。プロジェクトに向き合う精神

を過去の歴史から受け継いでいくことも大事なことであろう。ある IT 部門での“プロジェクト仕の掟”
①どんな時も真摯さを欠いてはなりません②より大きな目的を疎かにしてはなりません③虚偽の報告をしてはなりません④目の前のリスクから逃げてはなりません⑤成果に向けた努力を惜しんではなりません⑥仲間を思いやり共に成長する気持ちを忘れてはなりません、ならぬことはならぬものです。

(7) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システムエンジニアリング)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施しています。お気軽に体験参加してください。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

・12 月 18 日（火）第 39 回定例会合開催

「プロジェクトを成功させるためのメンタルヘルスマネジメント」に関する研究内容を議論。

8 月に開催した「プロジェクトマネジメント学会メンタルヘルスマネジメント研究会 SPM_MH Workshop 2012 in SEOUL」の成果報告に関する出版内容の検討。

・01 月 16 日（水）第 40 回定例会合開催

「プロジェクトを成功に導く「レジリエンス」とは」に関する研究内容を議論。

「昔はなぜメンタルヘルスが少なかったか？」に関する研究内容を深堀議論。

8 月に開催した「プロジェクトマネジメント学会メンタルヘルスマネジメント研究会 SPM_MH Workshop 2012 in SEOUL」の成果報告に関する出版内容の最終レビューを実施。

<今後の予定>

・02 月 20 日（水）第 41 回定例会合開催予定

・03 月 21 日（木）第 42 回定例会合開催予定

【問い合わせ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(8) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

(主査：梶山 昌之 DSR)

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

<過去 2 ヶ月の活動実績>

統計の基礎から体系立てた知識を確立していく

ために勉強会を実施しています。現在は EXCEL を使った統計解析についての学習、また実務での活用についてディスカッションしています。

12 月 11 日、2 月 12 日 研究会開催。

＜今後の予定＞

12 年度は統計の学習を中心に活動を行いました。13 年度は応用面に重点を置いた活動を行っていきます。

会合は 1 回/月を目安に開催していきます。

ご興味ある方の参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】 kajiyama@dsrnet.jp

(9) ものづくり R&D プロジェクトマネジメント研究会

(主査：久保 裕史 千葉工業大学)

ものづくりのための研究開発プロジェクトマネジメントの問題点抽出・分析と、その結果に基づく使いやすい PM の研究活動に、16 名の産学協同検討チームが取り組んでいます。

＜過去 2 ヶ月の活動実績＞

第 4 回会合（12 月 20 日）で、これまでの議論をベースに、本研究会が取り組むべき課題を、ものづくり R&D における PM の、①啓蒙、②定義明確化とツール整備、③ステージゲート機能化、④人材育成、の 4 つに絞り込みました。また、本会合では、富永章先生をお招きし、「R&D へのモダン PM 適用」についてご講演頂きました。その中で、2005 年頃、13 社の CTO が参加して研究されたテーマ「PM の知恵を R&D にどう生かすか」の成果をご紹介頂きました。

＜今後の予定＞

前記 4 つの課題別にワーキンググループ (WG) に分かれて議論を掘り下げ、具体的成果に結びつけて行きます。次回会合（2 月 21 日）では、各 WG の H25 年度研究計画が報告されます。また、製薬会社から特別講師をお招きし、創薬 R&D への PM 適用の可能性についてご講演頂く予定です。

(10) フロネシス（知恵ある実践）PM 研究会

(主査：本間 利久 北海道大学)

2012 年 10 月より研究会として新たに発足しました。

研究会名称のフロネシスは、アリストテレスによる三つの知恵のあり方の一つで、実践知 (practical wisdom) と訳され、倫理や情動、人間の行為などが加味された総合的な知恵を意味しています。また、プロジェクトも、知識、技術、実践の総合知であることを考えると、プロジェクト

マネジメントの知識・技術を実践の場で活かすには、単体のプロジェクト (PMBOK ガイド) を取り巻いている世界 (①人間関係のスキル②一般的なマネジメント知識・スキル③プロジェクト環境の理解④適用分野の知識・標準・規制) を考慮する必要があります。このことがプロジェクトマネジメントの賢い実践 (フロネシス) につながります。

そのため、①②③の組織文化の違いの理解、乖離を埋める方策および新体系の創出・実践が、日本企業でのプロジェクトマネジメントのフロネシスとなり、日本の企業が世界で戦えるプロジェクトまたはプログラムマネジメントで求められていることに他なりません。

＜過去 2 ヶ月の活動実績＞

来年度、韓国での研究会フォーラム開催にむけて、漢陽大学と在韓日本企業関係者との間で事前調整の検討をソウルで行いました。12 月 7 日 (金)、北海道大学ーソウル大学の大学間シンポジウムの分科会およびプロジェクトマネジメント学会北海道支部講演会において、新研究会の活動内容を紹介し、研究会への参加を勧誘しました。第 1 回研究会を 12 月 17 日 (月) に開催し、韓国の研究会フォーラム・研究会活動方針について検討しました。第 2 回の研究会は 1 月 28 日 (月) に開催し、研究会の活動内容・英語名称の検討、書籍「PMBOK ガイド活用法」「組織文化を変える」・資料「組織文化診断ツールに利用法」等の紹介を行いました。

＜今後の予定＞

2 月 26 日 (火) 第 3 回研究会を開催し、これまでの活動内容を報告後、3 月開催の PM 学会 2013 年度春季研究発表大会の発表内容を検討し、今後の具体的な研究会の活動内容として韓国の研究会フォーラム等を検討する予定です。また、メンバーの募集方法、研究会の年間スケジュールの調整および書籍・資料の紹介も行います。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】

研究委員会委員長 初田 賢司
kenji.hatsuda.fn@hitachi.com

研究委員会委員 米玉利 紀一郎
kiichiro.yonetamari.ar@hitachi.com

研究委員会委員 小川 純平
jumpei.ogawa.ap@hitachi.com